



社団法人現代教育研究協会

会 報

45

題字 榎本 頼兼 氏

発行所 社団法人 現代教育研究協会  
 京都市下京区不明門通五条東ビル  
 インターナショナルアカデミー内  
 〒600-8171 TEL(075)371-5081  
 FAX(075)371-6005

印刷所 株式会社 洛 陽

# 『現代教育研究協会』に思う

会 長 梶 村 健 二



## 生涯学習社会の進展

ポール・ランゲランが一九六五（昭和四〇）年に生涯教育の理念をユネスコで発表してから四十五年が経過しました。この間、生涯教育、生涯学習については、多くの実践家や研究者が考えをまとめ提示しています。

我が国においても、国の各種の審議会から生涯学習の重要性にかかわる多くの答申が出され、生涯学習体系への移行、生涯学習の基盤整備などがうたわれてきました。一九九〇（平成二）年には、生涯

学習振興法が制定され、国、地方自治体あけて生涯学習推進のための体制整備や施策の推進が図られてきたところであります。また、民間においても、カルチャーセンターや通信教育での多彩な学習メニューが用意され、生涯にわたって学習を行う豊かな条件が整備されてきています。

二〇〇八（平成二〇）年に中央教育審議会からだされた「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について」の知の循環型社会の構築を目指して」の答申の中でも、社会の変化によりますます生涯学習の振興への要請が高まっており、国民一人一人の生涯を通じた学習の支援——国民の「学ぶ意欲」を支えることが重要であると指摘されています。

今後とも、国民の自発的な学習がより大事にされ、社会全体の教育力を高めるための取組が官民一

体となって進められることが求められてきています。

## 学校教育の現状

学校教育に目を転じると、現在我が国における第三の教育改革ともいえる大きな改革が学校教育において進行中です。その背景には子どもを取り巻く社会の状況が大きく変化し、従来の枠では子ども

の育ちと学びを保障することが困難になってきたことがあります。次代を担う子どもたちの健全な成長を願い、確かな学力、豊かな心、健やかな体を育くむ取組が進められています。子どもたちにその力を生かすために今何をなすべきかという観点から、これまでの取組を変えるべきところがあれば改革を恐れず実行するところ

に、一方、守るべきところがたくさんに守り続けていくことが重要です。教育に失敗は許されません。しっかりと見通しを持って進めていく必要があります。一人一人の子どもを大切に、その個性の伸長を図り、人格の完成を目指し、社会の形成者として必要な資質を備えた国民を育成するために、われわれ大人に課せられた責務は大

変大きいといえます。その際、教育関係者だけでなく、保護者や地域の方々ともしっかりと手を携えて、地域ぐるみで教育を推進していくことが重要です。

こうした教育の推進のなかめは、一人一人の教員であり、教育の進展は何と言っても教員の資質・力量にかかっています。子どもたちにとって本当にいい先生をどのように養成し、採用し、育てるのか、それぞれにかかわる大学、教育委員会、学校が各々の役割をしっかりと認識し、お互いに連携しながらその責任を果たしていかなければなりません。

教員免許更新制度の見直しや教員養成六年制など教員免許制度の改革に向けた議論が始まりましたが、私たちは強い関心をもってその推移を見守っていかなければなりません。

## 現代教育とは

こうした生涯学習や学校教育の現状を踏まえ、広く現代教育をとらえるならば、様々な学習課題が山積しているといえます。われわれ現代教育研究協会は、一九七四（昭和四九）年森藤吉先生を初代会長として発足以来、直面する多くの教育課題を多様な観点からとらえ、会員相互で学びあい、また、外部に対して情報発信を行ってきました。昨年度も学習会や講演会を四回開催し、一泊研修旅行を実施するとともに、幼児教育に関する保護者アンケート（子供の成長と家庭での生活実態についての保護者の意識に関する調査）のまとめを行っています。これからの伝統を踏まえ、これからも会員が学習し、個人の学びを充実した人生

につなげる取組を推進すると同時に、組織として広く社会全体を見据え、現代における数多くの教育課題に立ち向かい、教育の充実・発展にどのような役割を果たしているのか、会員の皆様と一緒に考えてまいりたいと思っております。

今、現代教育研究協会をめぐる状況は非常に厳しいと言わざるを得ません。公益法人の今後の在り方、新規会員の掘り起こし、開かれた活動など多くの課題が山積しています。会員の皆様の力を結集し、お互いに知恵を出し合い、よりよい現代教育研究協会を目指していきたいと考えていますので、会員の皆様方の一層の積極的な協会運営への参画をお願いする次第であります。

## 平成22年度 社現代教育研究協会総会・講演会

日時 平成22年5月15日(土) 10:30～  
 場所 インターナショナルアカデミー 1階講義室

1. 講演会 10:30～12:00  
 演題「日本社会における民族学校  
 ～京都国際学園の過去・現在を中心に～」  
 講師 河 東 吉先生(京都国際中学高等学校 校長)
2. 昼食会 (ほっこりたいむ)
3. 総 会 13:00 21年度事業・決算報告と22年度事業・予算(案)

第一回講演会

「野球少年の夢」



アイディコンサルティング㈱  
代表取締役 大門 和彦 氏

平成二十一年五月十六日(土)

一九八四年、ドラフト四位で横浜大洋ホエールズに入団。九四年、阪神タイガースに移籍。先発、中継ぎ、抑えと三役をこなすマルチ投手として活躍(通算成績三十六勝五十二敗三セーブ)。現在は、アイディコンサルティング㈱代表取締役という本業以外に、講演、少年野球教室、ボランティア活動などでも活躍されている。今回の講演では社会人として、指導者として、日頃から考えておられることを中心にお話いただきました。

プロ野球の選手とは?

私は昭和四十年生まれで四十四歳、現役を退いて十四年になりました。プロ野球選手と一概にいえますが、一つの球団に所属できるのは七十人で、それを超えたものは育成枠、七十人のうちの半数は投手です。三十人強の投手のうちの

十一〜十二人が一軍枠、そのうちの四、五人が先発投手です。二月一日からキャンプ、オープン戦が始まり、三月末のベンチ入り二十八人に絞られます。シーズンにはいると、試合以外は練習と移動日で私は半年のシーズンのうち、家で休んだのは一番多かった年で三日です。シーズンが終わると教育キャンプが始まるということで、そこでもふるいにかけられます。七十人枠の中で新人が七、八人入ってきたら、七、八人が押し出されます。私は二年目の秋のキャンプで本当に来年から一軍でやる気があるかといわれました。そして、一例をあげれば、練習後の選手同士の付き合いのあり方まで指導をうけました。三年目を開幕一軍で迎えることができたのですが、今振り返るとプロとアマチュアのの違いといってもいいほど、一軍と二軍の選手の意識、考え方には違いがあったように思います。

\*「プロとアマチュアのの違い」という次の資料を準備されそれぞれの項目にご自身が経験された事例をあげながら、興味深く話されました。

プロの考え(一軍選手)

- 。人間的成長を求め続ける
- 。自信と誇りを持ち続ける
- 。常に明確な目標を指向
- 。他人の幸福に役立つ喜び
- 。可能性に挑戦し続ける
- 。思い信じ込むことができる
- 。自己訓練を習慣化
- 。成長し続ける
- 。自己投資を続ける
- 。使命感を持つ
- 。できる方法を考える
- 。自分のシナリオを書く

アマチュアの考え(二軍選手)

- 。現状に甘える
- 。愚痴っぽい
- 。目標が漠然としている
- 。自分が傷つくことは回避
- 。経験に生きる
- 。不信が先にある
- 。気まぐれ
- 。失敗を恐れる
- 。享乐的資金を優先する
- 。途中で投げ出す
- 。出来ない言い訳が口にする
- 。他人のシナリオが気になる

選手と保護者と指導者(スタッフ)の関わり

本来あるべき三位一体の関係が近頃くずれてきているのを感じる。子どもががんばっているのに親が評価しない。親同士が最初仲良くしていても、片一方がレギュラーになると仲が悪くなるというように保護者自身の問題を感じることが多い。指導者もちゃんと取れ、ちゃん

夢と目標の違い

夢の実現に向かっていくためのチェックポイントが目標であると思います。イチロー選手は小学校時代の作文に甲子園へ行つて、プロ野球選手になりたいと書いています。夢を達成する。そのために、今自分はずとという目標ができてくる。



プロ野球選手のこだわり

一流の選手は何故今、自分がそこにいるのかわかっている。中日の落合監督は試合で使うバットは最上のジュラルミンケースに入れ、四球で出塁の時も決してバットを投げなかった。山下大輔、新庄、掛布選手は入団してから退団するまでをひとつのクラブを手入

れをしながら使っていた。ピッチャーは三本の指はけっして爪をきらない、やすりでみがく。風呂に入っても利き腕は湯につけない、せっかくできたマメをつぶさないために、というこだわりをもっている。

尊敬する片平晋作 西武二軍監督から教えられたこと

ライバルのAが自分の前を走っている時、どうすればAを追い抜けるかを質問された。Aを追い抜くためには、Aと同じ目標ではダメである、Aよりもっと先の大きな目標を設定しないとAは追い抜けないということを教えられた。

学校教育とスポーツ教育について

今の学校の運動会はどうも面白くない。真剣な競争という点で欠けるものを感じることが多い。どこの世界にいても競争はある。競争で負けてもいいが、その結果に耐えられる精神性を養う必要があるのではない。競争社会では、新入社員がみな社長になれるわけではない。また、今の子どもたちは平気で泣く、雰囲気泣きで泣いている。打たれ弱い。精神力をもっと鍛える必要がある。そういう意味では学校教育もこれからは、もっとスポーツ教育にすりよってほしいと願っている。

(京都出身の元横浜ベイスターズ投手) ※講演の後、興味深い話の連続に参加者からは、多くの質問が寄せられ、そのひとつひとつに丁寧に答えられました。

第二回講演会

「書を携えて街にでよう」

京都市立堀川高等学校 校長  
荒瀬 克己 先生  
平成二十一年七月四日(土)



荒瀬克己先生は堀川高校の校長としての勤務の傍ら、その著書「奇跡と呼ばれた学校―国公立大 学合格者三十倍のひみつ」(朝日新聞社刊)がベストセラーになり、NHKTV「プロフェッショナル 仕事の流儀」に出演されて全国の多くの視聴者に感銘を与えられた。活躍をつづけておられる。講演では表題をきりくちに、子どもを育てるために、大人はどうあらねばならないか、大変熱のこもったお話を伺うことができた。

あたりまえのことをしている  
堀川高校が創立百周年を迎えることができ、今年には百一年目になります。百周年記念に何をするかを教職員と相談するなかで、変わったことをするのはなくあたりま

えのことをしていこう、今の世の中です。いやい何が悪いかという犯人探しをするのではなく、何が出来るのかという発想をしていくことが大事であると考えた。そして、あたりまえのことをしていこうとは、街にでていくということではないか、学校は鈴町にあるので祇園祭の鈴の曳き手に取り組もうということになった。男子は鈴の曳き手だが、女子も何かできないかと考え、女子は鈴が帰ってきたときのお茶の接待係に取り組もうということになった。女子の接待役は三十数人希望者があったが、男子は当初二人しかなく、公欠扱いにするという三十人ほど希望者が出てきて三つの鈴に曳き手として参加することができた。

高校コンソーシアム京都への参加、本能特養ホームのボランティア参加、幼稚園児とのふれあいなど、いずれ自分もそこで生きていくことになる街を体験することを生徒たちに推奨している。そのことが、今の子どもたちが傾向として持っている他人とのやりとりの力、コミュニケーション能力の不足と、参加し関わっていく力、コミット

メント能力の弱さを克服することにつながることを考えている。コミュニケーション能力の低下という点では、先だって、学校でSSH(スーパーサイエンスハイスクール)のまよめの発表会をした。発表の仕方は大変うまくいったが、発表した生徒に質問しても適切な答えが返ってこずに会話が成り立たないという印象的なことがあった。

大人たちは

大人は子どもたちに対して、はできないだろう、は無理だろうと子どもたちの能力を見くびっている傾向がある。子どもたちに対する信頼が不足しているともいえる。子どもたちを育てるには、課題に対してあえて失敗する場面を作ったり、乗り切る方法を教えなかったりして、子どもたちの力を信頼し、子どもにも挑戦させていくということが、子どもを育てることにつながるのではと考えている。



高校生の国際会議運営

二年前の夏、姉妹都市の高校生を招いての高校生の国際会議というものがあった。そのうちの環境会議が国際会議で開かれ、会議の企画を高校生に任せたらどうかということになり、紫野と堀川高校の生徒が実行委員会を作って取り組んだ。会議では、それぞれの土地に降る雨水をもってきてもらい、試薬をいれて分析する取組があり、参加する九都市に連絡、依頼した。七都市の水が集まり、検査で試薬を入れたところ、その中で西安の雨水が大きく色が変わり、中国の西安の高校生が泣きだしたことがありました。なぜ泣いていたのかを堀川高校の生徒に聞くと、「色が変わったことがショックだったのでは。でも、雨水を汚したのは子どもではないですよ。そして直していくのは私たちの責任なんですよね」と言った。子どもたちには何の罪もなく、大人に責任がある。

大人(親)のすること

小中学生を招待して発表会を持った時、ある小学生の発表で、携帯時計の日時計をもって夏の石川県に家族旅行をしたとき石川県と京都では時刻がずれる。何故だろうか?と思いつき図書館で調べたら緯度の違いが時刻の違いになることがわかった、というのがあった。親はおそらく答えは知っていたが、子どもが自ら調べるのを待っていたのだろう。それこそが親の責任を果たしている、ということだと思ふ。

答えは子ども自身が自分で考え出し、していかなければならない。

中一の参観授業から

ある中学校の授業で、ピカソのゲルニカの絵をみて何が見えますか?という問いかけを子供たちにしたものがあった。指導者が事前に、馬、暗い感じ、死、希望、など予想される答えを紙に書いて用意していた。子どもたちにとって、いかに指導者が用意した答えを見つけているのかという修練になっていた。これはおかし。答えはあてられているのではなく、自分が考え出していくものでなければならぬ。

秋田県の高校生に教えられる

秋田県の授業で、堀川高校で一週間生徒を預かってくれたのか?というのがあった。そのことで秋田県によばれて行った時、秋田駅ビルの構内放送で県立高校の生徒会が乗車マナーについて放送していたのを聞き、内容がよく感動した。そのあと、秋田県の生徒たちに「あれはよかった」というと、よかったら京都はどうしてしないのですか?と、いわれた。私たちは、出来ないこと、出来ない理由ばかり言い立てているのではないかと、その時高校生から教えられた思いがする。皆さん、これからは子どもを育てる責任のある大人として、いろいろなことを、少しずついいからやってみましょう。

第三回講演会

「煎茶席への誘い」

煎茶道宝山道

家元

辻 宝山通氏  
山川 宝文氏  
垣口 衣子氏

平成二十二年八月二十二日  
於 旅館「銀閣」

私たちが「茶道」という言葉を耳にするとき三千家など、ふつうは抹茶を思い浮かべます。しかし、日本人が家庭や職場で「お茶を飲む」といえば抹茶ではなく、圧倒的に煎茶の場合が多いことでしょう。江戸時代中期にはじまり、多くの文人に愛され今につながる煎茶道についての学習と、旅館「銀閣」の素晴らしい和室、茶室をお借りしての煎茶席、玉露席での喫茶の体験が第三回講演会の内容です。残暑の厳しい中でしたが、冷房のよく効いた素晴らしい会場でお茶を満喫しました。

宝山流 茶十徳  
簡単修練 生活直結  
短期習得 場所不選  
現在即応 有物使用  
形体不囚 他流不詔  
自由亨茶 名器不用

今回ご指導いただいた煎茶道、宝山流は、十数代前の家元の儒医としての立場から、心身調整の妙薬としてのお茶の扱い方を考え、煎茶の指導を行ってきた流派です。形式だけの作法ではなく、現代人がともすれば見失いかけている伝統の息遣いに触れること、煎茶の作法を通してお茶に備わる深い精神性に対峙することを大切にされています。喫茶は、飲む人の心を



茶道十徳

疲労回復 脂肪溶解  
不老長寿 適利尿便  
精力増進 苦味普輪  
悪臭消散 浄血不壊  
萬葉根幹 神経強化

また講演会ではお茶の歴史についても資料を通して紹介ができました。

お茶はツバキ科の常緑低木樹で南アジアの高原地帯が原産地といわれ、古くから中国では薬用として用いられていましたが、唐の時代には陸羽による「茶経」という世界最初の茶書が著されています。また、唐の詩人、蘆同が茶を喫して得た、茶の効用と精神性を茶歌にし後の江戸後期煎茶人のバイブルとなったそうです。

日本では

最澄(伝教大師)が八〇五年に唐から持ち帰ったと伝えられていて、

「日本後記」に八一五年嵯峨天皇が近江の国に行幸されたとき、梵刹寺の大僧都永忠が「手ずから茶を煎じ奉卸す」と記されており、我国は一一九〇年以上の喫茶の歴史をもっています。近世の煎茶を日本に紹介したのは、中国から渡来し、宇治黄檗山萬福寺を開創した隠元禪師とされ、日本煎茶の祖といわれている、売茶翁は一六七六年に誕生。禪の修行を積み、心は禅僧、身は俗人茶禅一如、茶によって禅の道を高揚し、中国の蘆同の思想に傾注したとされています。

お茶をいただいて

さて、講師の方から実際に入れているいただいたお茶の美味しさに、参加者は皆異口同音に驚きの声を

あげておられました。「煎茶がこんなに美味しいものとは……」

。「こんなに美味しいお茶は余り飲んだことがない」

。「お茶はこういう入れ方をすれば家庭でも美味しくいただけるのですか」

。「この美味しいお茶には、どんな茶葉を使っているのですか」

というような感想や質問が参加者から多くいただきました。講師の方からは、お茶を美味しくいれるために注意するポイントを説明していただいたり、今回の講演会で使っているお茶も決して高価なものでもなく、ごく安価な一般的なものであることなど、皆さんの質問に丁寧に答えられていました。

第四回講演会

「日本の文様 今と昔」

図案家 大内惣介氏

平成二十二年一月三十日(土)

一九五二年京都市に生まれ、日吉が丘高校日本画科卒、図案家の父大内精二氏に師事、一九八〇年独立「春紅園」設立、以降、インテリアアートプログラム「春紅園」設立、図案塾設立「文様講座」開設、二〇〇六年には(株)日本図案家協会副会長に就任、NHK文化センター講師を務められ図案文化の向上発展につとめておられる。新年初め





ての講演会では、日本の伝統産業の現状について、日本の文様について、大変興味深いお話をきかせていただきました。

### 日本の文様文化(伝統産業)の現状

日本の文様は、遣隋使、遣唐使をとおして奈良時代に中国から入ってきたものが元になっている。文様の一つ一つに意味と歴史があるのだが、私たちは現在何も知らずに使っている。奈良時代からわが国で継承発展してきた伝統は、明治維新を迎え、日本人の関心が西洋にだけ向かう中で否定され忘れられていくものになった。

なぜそうなっていったのか？を考えると、今、思い出すと私たちは義務教育の中で手に触れる楽器はカステネットやリコーダーというように西洋のものばかりで、音楽鑑賞と言えばオーケストラであ

り邦楽ではなかった。そして音楽に限らず美術教育も然りで西洋中心のものになっており、小さい時に教えられたりふれあったりしないことが、日本古来の伝統産業の衰退につながっていった側面があるのではないかと思う。子どもの頃に触れていないと興味がわかず廃れていくのである。ヨーロッパの子どもたちはオペラについて小さい時からふれているので、オペラについて誰もが話ができることに驚く。

### 「能舞台には、なぜ松の絵があるのか？」

「はなだ色とはどんな色か？」  
日本古来のものが、私たちの世代では切り離されている。伝統産業にかかわる人たちが高齢化し、産業の衰退で生活できないということの後継者がなく現状では先行きの見通しがない。(社団法人協会でも昭和四十八年に七百名ほどの会員が今年には二百名をきった。会員の平均年齢は六十九歳で二百名のうち、その仕事を実際に行っているのは、二十名ぐらいである。

「日本の伝統文化を伝える職人がいなくなっていく」という現状に対して、行政の人たちはデジタルアーカイヴとして残していけばなくならないかと思っているようだが、そんなものではない。ものを作る姿勢、人間関係のふれあいがあったり初めて伝わっていくのである。自分たちの世代で日本から伝統産業の多くがなくなっていくこ

とになると思うと責任を感じるし残念でならない。

### 日本の文様の歴史

奈良時代、平安時代の中国からの遣隋使、遣唐使によってもたされた文様も、中国に渡る以前はシルクロード、メソポタミア文明へとさかのぼっていきます。唐草文様ひとつとっても、大陸を何世紀にもわたって移動していく中での変化があります(メソポタミア地方、ギリシャ地方などの唐草の文様を事例を挙げてご説明いただきました)。そして、日本でも遣唐使の廃止によって日本に入ってきた文様は明治期まで日本風に様々にアレンジされて、継承、発展という変化が以降起こってゆきます。

### 文様の意味(松竹梅鶴亀)

「松竹梅鶴亀は何故めでたいとされるのか？」  
「法隆寺の柱になぜ龍の彫刻があるのか？」  
「パスポートの文様に桐が使われているのはなぜか？」  
「賞状の用紙のまわりになぜ鳳凰の文様があるのか？」  
「能衣装には天と現生の文様がつかいわけられている。」  
「徳川美術館でよく見られる文様は？」  
「葡萄の文様がなぜめでたいのか？」  
(などなど図を交えながらその由来や意味について講師の先生の楽しい説明がつづきます。)

吉祥の文様とは、動植物の持っている能力を、自分たち人間にもこういうものがあればという願望に置き換えたものととめることができます。

### 日本の歳時記

正月や節分をはじめ、私たちのおこなっている行事のいろいろなことについて意味があるのに、大変残念なことに、その意味が伝わらなくなっている現状がある、と節分行事を例にお話をしていたいただきましたが、講演時間の制約があ

り、「もっといろいろな話を聞きたい」と会場がもりあがっているなかで講演の終了となりました。

※講演の後も、多くの質問や感想がだされ、「是非、今日の話の続きがききたい」「今の子どもに自分の知っていること、わかることをわずかもつたえていきたい」「わたしたち自身ももっと学び、子どもたちに伝えていく責任がある。」というような声が会場のおちらこちから聞かれました。

## 城下町は春爛漫

—岡崎城・香風溪・足助屋敷・岩村城跡・城下町雛人形・奥矢作溪・笹戸温泉—  
平成二十一年三月二十九日～三十日(日・月)

私たちの旅は、歴史を巡る旅だ。特に意識したわけではないが、振り返るとそうなっていた。そして、それぞれの町の文化に触れ、京都の文化と重ね合わせたりしてきた。

今度の旅も、歴史の奥深く、毎日の生活として今に生き続ける町を訪れることになった。

### 幻の岩村城

戦国武将など、歴史好きの女性を総称して「歴女」というのだそう。この方々、お上品な人たちばかりでもなく、過激派ともなれば、お墓も掘り起こすこと辞さず、





という入れ込みようだそうである。ならば、この戦国女性など、「歴女観音」とでも呼ぶことができるのではないか！

……城下町岩村町は、木曾山脈を背に海拔六百メートルの高地にあります。

鎌倉時代に創築された日本三大山城の一つといわれる岩村城は、霧深い山峡にあることから、古くは「霧が城」とも呼ばれ、戦略上重要な拠点でありました。

特に戦国期には美濃の織田、甲斐の武田による争奪の地で、戦国時代、あの織田信長の叔母で、城主・遠山景任の妻お直は、夫の死後日本で唯一女性の城主として城下を治めた女丈夫でしたが、絶世の美女として知られていました。

……「旅のしおり」には、このように紹介されて、昨今、お酒の銘柄「女城主」として、全国に名を馳せている。味は、「濁り酒」も、「純米吟醸」も、ほどよい甘口。

まさに「観音さま」。

私たちが立ち寄ったとき、岩村の町は旧暦の「ひな祭り」の最中。通りに面した家々は、それぞれのおひな様の「名品」を飾っておられた。一つ一つ、暮らしの中に籠められた深い思いと職人技の見事に驚かされた。ここでもまた、私たちの国の、今は地方と呼ばれる町の「文化力」に心うたれた。



「西本願寺にこんなところがあったのか……」ここでお能をされるのを見たい……「柱一つに、絵の一枚にこんな工夫がされていたのか……」等など、感心することの

## 西本願寺とラフォーレ琵琶湖、近江八幡、石馬寺

平成二十一年十一月二十四日（火）

秋のおだやかな一日、秋の日帰り研修旅行は午前九時、西本願寺をめざして京都駅八条口バスプールを出発した。およそ十分後、大銀杏が真っ黄色に色づいた境内を通り、最初の行く先はこのたび改修工事が竣工した、東西四十八メートル、南北六十二メートル、高さ二十九メートルの重要文化財「御影堂」。その堂々たる雄姿に圧倒されながら、お堂に上がり参拝させていただく。そのあと、本願寺の方に案内をいただき、ふだんは簡単には見ることのできない国宝飛雲閣をはじめ、西本願寺の国宝や重文の数々を楽しむ説明を聞きながら、拝観させていただいた。

日本大正村

話は前後するが、城下町に入る前に、私たちは日本大正村を訪ねた。明治から大正にかけての建築物などが、資料館として公開されている。地域の方の案内で町を巡った。この方は京都の大学を卒業し、中学校の国語の先生をしておられたそうであるが、本当に清楚な方だった。

また、洋画の父と言われる山本

芳翠の出身地である。誰よりも先駆けて西洋に学んだ彼は、後輩たちの面倒見もよく、後に名をなす後輩たちも彼を慕って渡欧した。ご存じの方もおられるのではないかと、古き俳優山本礼三郎・惜春鳥の山本豊三は、芳翠の子孫である。

ゆっくりと歩きながらの旅、歴史と大自然の息吹に触れる旅はこれからも続くだろう。

京都駅八条口に向かった。往路の梶村会長、復路での西本副会長のご挨拶とともに、楽しく軽妙な語り口で一日案内していたバズガイドさんにも大きな拍手がよせられた。

後日、参加者の方数名から、「西本願寺は初めて見るところばかりで、歴史の中に身を置いているような感動があった。」「あんなに美味しいバウムクーヘンは食べることがない、また行きたい」というような感想をいただいた。

晩秋のおだやかな一日、秋の日帰り研修旅行は午前九時、西本願寺をめざして京都駅八条口バスプールを出発した。およそ十分後、大銀杏が真っ黄色に色づいた境内を通り、最初の行く先はこのたび改修工事が竣工した、東西四十八メートル、南北六十二メートル、高さ二十九メートルの重要文化財「御影堂」。その堂々たる雄姿に圧倒されながら、お堂に上がり参拝させていただく。そのあと、本願寺の方に案内をいただき、ふだんは簡単には見ることのできない国宝飛雲閣をはじめ、西本願寺の国宝や重文の数々を楽しむ説明を聞きながら、拝観させていただいた。

「西本願寺にこんなところがあったのか……」ここでお能をされるのを見たい……「柱一つに、絵の一枚にこんな工夫がされていたのか……」等など、感心することの

編集後記

会報四十五号を皆様の手元にお届けすることができました。今年度は、梶村会長が一面の挨拶でも少しふれられていますが、国の法人制度改革に対してどう臨んでいくか、の方向性をだしていく年度でもあると思っています。協会今後の在り方につきましても会員の皆様のご意見をお寄せください。

